



# 大規模水田作法人にキャベツ等を導入した 複合経営モデルを策定

— 新作型導入で農業所得が概ね3割向上します —

## 開発の背景・ニーズ

稲・麦・大豆を中心とした水田作では、政策転換や米価の変動等により、経営が不安定となっています。一方、露地野菜においては、加工・業務用野菜の需要が高まっています。そこで、所得を向上し経営の安定を図るため、大規模水田作経営に露地野菜を組み合わせた複合経営モデルの策定に取り組みました。

## 成果の内容

経営面積54ha、常時従事者4名の雇用型法人モデル及び経営面積150ha、常時従事者10名の集落営農法人モデルにおいて、稲・麦・大豆を作付けする現行モデルに対し、先進事例調査や実需需要調査を元に、導入する露地野菜の種類、作物間の作業競合を避ける省力技術や各作物の作付割合などを検討しました。

新規導入作物としては、加工・業務用として実需者が周年必要としているキャベツを選定しました。また、麦・大豆の多収品種への変更、稲の直播導入や省力化技術の導入等とともに、各作物を年間を通して労働力を有効活用できる作付面積としました。この新作型モデルでは、現行モデルに比べ農業所得が概ね30%向上しました。

### 新作型複合経営モデルの策定

**現行モデル（雇用型法人）**  
 労働力 常時従事者4名  
 + 臨時雇用795時間  
 新規作物導入における課題  
 : 作物間作業競合の解消  
 播種・定植前ほ場作業の省力化等

**新作型モデル（雇用型法人）**  
 労働力 常時従事者4名  
 + 臨時雇用429時間  
 有望な野菜作：キャベツ  
 必要な導入技術：キャベツの省力化技術  
 水稻不耕起V溝直播栽培導入等

| 経営モデル                |      | 現行    | 新作型             |
|----------------------|------|-------|-----------------|
| 作付面積 (ha)            | 移植水稻 | 36    | 13.5            |
|                      | 直播水稻 | —     | 13.5            |
|                      | 小麦   | 18    | 27              |
|                      | 大豆   | 18    | 21              |
|                      | キャベツ | —     | 6               |
|                      | 計    | 72    | 81              |
| 付加価値額<br>(単位:万円)     |      | 2,858 | 3,456<br>(21%増) |
| 一人あたり労働報酬<br>(単位:万円) |      | 550   | 713<br>(30%増)   |

## 愛知県農業への貢献

水田作に加工・業務用向けの露地野菜等を導入した複合経営により、雇用労働力の有効活用、収益構造が改善されます。経営基盤を強化するモデルとして経営指導に生かすことができます。